

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1992. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 95

日本野鳥の会 埼玉県支部

石 戸 宿

春いっぱい石戸宿。東京のベッドタウン北本市の西縁に位置し、起伏に富んだこの地では果樹栽培が盛ん。春先から梅・李・梨・桃の花が次々と咲き乱れ、さながら桃源郷の趣き。自然の息吹きを全身に感じながらのバードウォッチングを楽しみませんか！いろいろトリドリ揃えてあなたの定例探鳥会への参加をころからお待ちしております。（偶数月に催行）

自然環境

かつて鳥仲間はこの地を「農事試験場跡地」親しみをこめてそう呼びました。現在、そこには北里メディカルセンター病院がそびえたち、台地の縁の雑木林の周囲に自然遊歩道が設けられています。

隣接し散在する平地林・斜面林と複雑にいくんだ谷地部の湿地帯・アシ原を北本自然観察公園として整備することが計画されています。今年の6月には自然学習センターが完成予定です。昆虫や植生の豊かなこの地の人工的变化の行く途は不透明です。探鳥会という定点観測を通じてのデータの積み重ねが何かを提供してくれるものと期待されます。皆さんといっしょに四季折りおりの自然にふれながら、気ばらずのんびりとそれに参画することができたらと考えています。

探鳥コース

集合場所は自然観察公園駐車場。舗装道路を南下、病院の前を通り過ぎ釜屋（食事処）のところで右折し、しばらく道なりに進むと自然遊歩道の案内板があります。小さな坂を下って右に曲がり、左手に子供公園の林を見ながら台地の縁を歩きます。左側に広がる湿



地帯はアシとススキの原。遊歩道に導かれながら進むとやがてあずまやです。さらに直進し起点の駐車場に戻って鳥合わせです。

探鳥会ではこの周回ルートを基本に種々の補足ルートをバリエーションとして加えていきたいと考えています。

この探鳥会コースに沿って観察ポイントを中心にご案内しましょう。

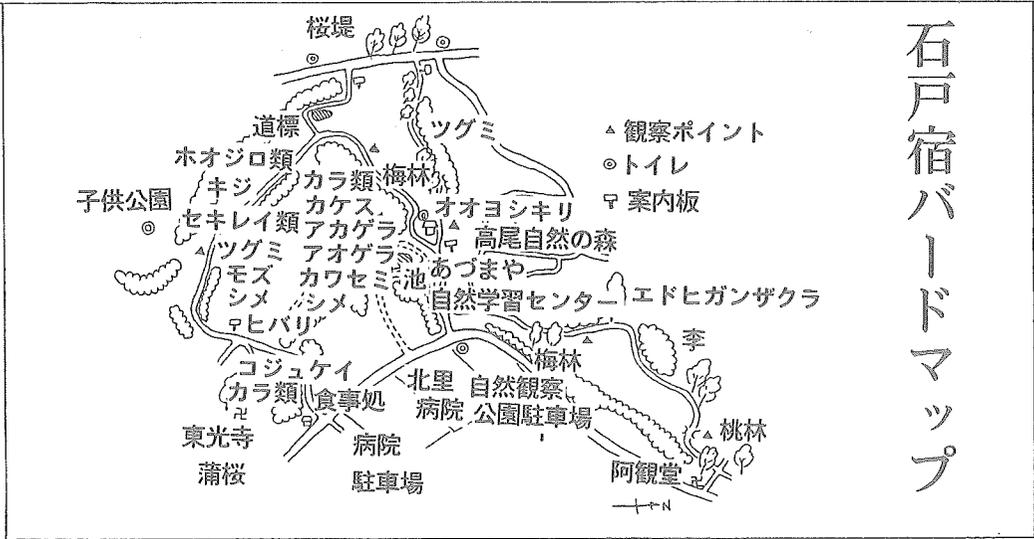
A) 釜屋付近

ヤマナラシの並木と雑木林の初夏の頃、エゴノキが白い清楚な花を咲かせます。秋も深まるとアカシデが紅葉しガマズミが赤い実をつけます。樹々の間をカシラダカが行き来し、森の道化師カラの混群が飛び交います。近くの高木の枝にとまったオオタカと10m程の至近距離で目と目があったこともあります。イチョウの大木の黄葉が見事です。

B) 子供公園辺り

台地の上に研究所の建設が進んでいます。ヒバリのさえずりはいつまで聞けるのでしょうか？笹藪にはウグイス。低木の梢にとまったモズの腹すり飛行をよく見かけます。キジがよく出没するのもこの辺り。子供公園との間の橋の上からは3種のセキレイが見られるでしょう。アシやススキの原から時折顔を出すアオジ、カシラダカ、ホオジロも探してみよう。開けた処では空を見上げること。初夏にはサシバ、秋から春の間はハヤブサ、オオタカ、ノスリが青空をバックにその雄姿を見せてくれるでしょう。冬枯れの季節に歩いたこの道端にニセアカシアの林があったことに気づくのは若葉の頃の事です。自然の移り変わりに驚かされます。

石戸宿バードマップ



C) 道標から東屋へ

クヌギ、ヒノキ、イヌシデ、アカシデ、アオハダ等の生い茂る森の中からアカゲラ、アオゲラのドラミングが聞こえてきませんか？ シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ヤマガラ等の混群に出会ったら木化けして静かに通りすぎるのを待つところの余裕をもちたいものです。カケスの群れも林から林へ移っていきます。地上ではアカハラやシロハラが餌を啄んでいます。秋にはアソ原のあちこちでモズの高鳴きを聞くことができるでしょう。夏にはカッコウが飛び交っています。運がよければホトトギスの声を聞くことができます。

d) 東屋辺り

目の前に広がるアソ原でギョギョシと一生懸命さえざるオオヨシキリの姿は夏の風物詩です。上の池の畔にも行って下さい。カワセミが時々出現しますし、冬にはウソやミヤマホオジロがやってくる場所です。初夏の探鳥会でツミがでたこともあります。冬にはアソ原の向こうに見える梅林の近くにフィッフィッとやさしい声で鳴きながら飛び廻るベニマシコがいるかもしれません。

E) その他の観察ポイント

集合・解散場所の駐車場近くでイカルの声やアオバトが出たこともあります。

ホオジロのソングポストも近くにあるシカワラヒワのさえずりも聞けるはず。阿観堂から学習センターへ到る道は冬と早春がお勧めです。落ち葉を踏みしめて歩くのも楽しいし、春には果樹園の様々な花やエドヒガンザクラがこころをなごませてくれます。オオコノハズク、クロジ、ミヤマホオジロが出たこともあるコースです。斜面林ですので足元には充分注意の程を！梅にジョウビタキの絵となる風景に出会えるかもしれません。

石戸宿の魅力

休耕田がなくなり、林が削られてタゲリ、タシギ、サンコウチョウの姿が見られなくなった事は残念です。探鳥会での出現種も27種前後とさほど多くはありません。しかしワシ・タカは健在です。最近の探鳥会ではカワウの大編隊を見る事が多くなりました。不忍池からの出張でしょうか？

春には桜堤の彼方にかすむ秩父連山の山波も美しいし、初夏の若葉の輝き、秋の紅葉、冬には葉をすっかり落とした樹々の芽ぶきと四季の変化を楽しめる探鳥地です。

近くの民家で春にはイチゴ（荒井橋から吉見町への道）夏にはスモモ、秋にはナシ、ブドウ（石戸宿・高尾・荒井周辺）を売っています。お帰りの際のおみやげにどうぞ。

(岡安征也・北本市)

1992年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。
(執筆 三田長久)

1月15日、全国一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施されました。当日は冬型が次第に弱まり高気圧が張り出し始めており、晴天にはめぐまれたが北風が強くなり寒い日でした。今年も狭山湖と昭和池については会員の方々の参加をいただき、他地区はそれぞれ調査員をお願いし、県内で18ヶ所、52名の方の御協力を得ました。

調査地毎の1992年カウント結果と1982年からの合計値の推移(表)と1982年からの県内集計数の推移(図)を示します。図において、1989年新たに完成した渡良瀬遊水池・貯水池を除いた1990年調査地を対象とした集計値は、今年も昨年にくらべて若干増加していますが、1985年をピークとする減少傾向は続いているようです。渡良瀬を含めた県内全集計値も昨年に比べて増加し、調査地点の増加の影響を除くため1990年調査地について比較しても、全体としてほぼ横這いの傾向を示しています。

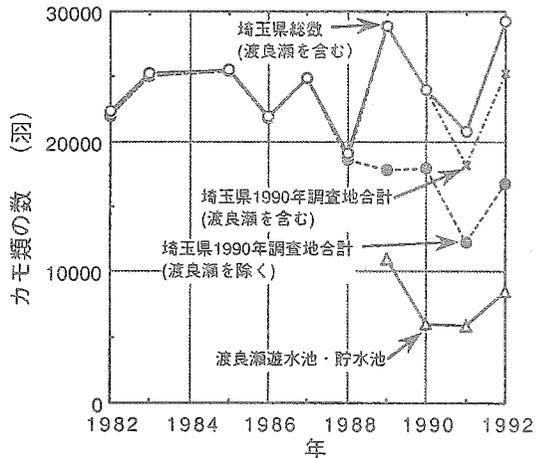


図 カモ類の合計値の年変化

表 1992年カウント調査結果と過去の合計数

調査地	荒川						芝川	古利根川	利根川	渡良瀬川	狭山湖	小群川 調羹池	百穴湖	武蔵丘陵 森林公園	大沼公園
	入間川	荒川	流調 第一池	秋ヶ瀬橋 羽根倉橋	南郷 非水堀場 びん沼川	荒川大橋 明戸せき									
調査範囲	壺水橋～ 新富士見 橋	荒川鉄橋 戸田橋	流調 第一池	秋ヶ瀬橋 羽根倉橋	南郷 非水堀場 びん沼川	荒川大橋 明戸せき	東北線～ 県道・大 宮栗橋線	寿橋 堂面橋	飯東大橋 下流	遊水池 貯水池			大沼	山田大沼 など	大沼
地域	狭山市	川口市 戸田市	戸田市	浦和市	大宮市 富士見市	江岸市 戸田市	大宮市	越谷市 松伏町	本庄市	北川町	所沢市	川越市	吉見町	滑川町	江岸町
コハクチョウ						3									
オンドリ												1		79	
マガモ	13		146	30		138		638	1,023		445	12	872	2,862	10
カルガモ	66	82	140	40		143		840	2,539		65	11	22	1,341	147
コガモ	156	60	96	12		594		189	520	925	345	224	120	215	2
トモエガモ		1							6	3				9	
ヨシガモ									3						
オカヨシガモ			10	2		93			51	4					
ヒドリガモ		48	38	5		1			32	183		276		3	59
アメリカヒドリ									51	32					7
オナガガモ	14	317	87			740			298	218	101	1	190	116	40
ハシビロガモ			164	2					9	28	15		86	60	1
ホシハジロ	1	381	211	4		1					2		60	39	
アカハジロ															
キンクロハジロ		156	15	3											
ホオジロガモ												2			
ミコアイサ															
カワアイサ															
カモSP															
種類 合計	5	7	11	8	-	8	-	6	10	14	6	7	6	10	5
調査者数	250	1,045	966	58	-	1,713	-	605	2,367	8,486	861	716	1,276	4,590	225
1982年合計	-	1,831	-	724	-	408	199	362	-	-	4,709	-	445	7,897	-
1983年合計	-	2,223	-	770	-	339	-	470	-	-	6,449	-	168	8,323	-
1985年合計	-	903	-	-	-	133	-	-	-	6,284	-	-	-	6,065	-
1986年合計	-	955	-	1,317	-	37	-	-	1,763	-	2,955	-	2,131	6,418	-
1987年合計	-	741	-	500	-	24	-	729	3,210	-	3,170	-	2,048	6,814	-
1988年合計	-	712	-	543	-	457	-	718	3,483	-	1,692	-	965	3,367	-
1989年合計	589	467	-	625	-	162	-	469	3,148	10,890	664	-	627	3,375	-
1990年合計	332	930	-	305	-	-	279	638	1,400	6,110	1,071	702	1,453	4,900	-
1991年合計	433	227	1,019	28	111	772	-	497	2,136	5,879	1,132	-	486	2,786	230

いずぬまに行ったこと

小2 えの本 なつ野

朝日がのぼるまえ、みんな黒かった。白鳥は黒鳥みたい。朝日が半分見えてくると、黒かった白鳥がピンク色になってきた。それに1まんばのガンが一せいとびたつた。かぎのかたちになって、むれでとんでいった。ガンが行ったあと、白鳥の家ぞくがとんでいった。そのあとからカモの家ぞく。バタバタ音を立ててとんでいった。それからりょかんにかえってしたくをし、かんさつごやへ行った。そこにはシジュウカラガンがいた。顔が黒でくびのところはわかがあった。そのすぐとなり立っているぼうのところはコサギがとまっていた。

白鳥はのんびりやさん。カモはいそがしそう。白鳥はえさがほしくて、くびをのぼしている。でもうごきがはやいカモにとられてしまう。おしりだけだしてえさをとっているのもいた。カモはもぐってたのが上がるとき、ペンギンみたいに見えた。おながが白くて。白鳥のくびは数字の2のようだ。数字の歌の「数字の2ってなあに」のところはアヒルじゃ

の 推 移

八丁湖	県立 農林公園	昭和池	白幡沼	大宮公園	柳瀬川	1992.1.15 埼玉県 支部 総合計
	芳沼	菖蒲公園		ボート池	富士見橋 栄橋	
吉見町	川本町	久喜市	浦和市	大宮市	富士見市 志木市	
140		928			9	3
54		1,060	24		112	80
		1,600	7		169	7,268
		24				6,742
						5,234
						44
						3
		110			230	219
		2				984
		830	34		336	3
		102	8		4	3,322
1		4	7	181	10	422
						904
		52		4	6	238
		1				5
						71
						53
						3,653
3	—	11	5	2	8	17
195	—	4,713	80	185	877	29,248
2		14	1	1	6	52
—	—	5,672	13	—	—	22,260
—	—	6,310	22	134	—	25,286
—	—	7,940	134	—	—	25,476
—	—	6,262	—	—	—	21,838
—	—	7,630	—	—	—	24,866
—	—	7,055	—	—	—	18,992
—	—	7,823	—	—	—	28,839
—	—	5,495	234	158	—	24,007
—	556	4,290	51	146	—	20,779

なくて白鳥だね。アヒルはまるまるふとっている。1まんばのガンも見たのしかたです。



(押川歳子)

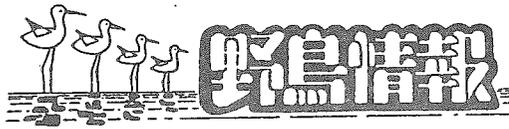
普及部からのお知らせ

1月号のお知らせ「探鳥会のリーダーは探鳥会の安全・円滑な運営に支障をきたす恐れのあると認められた参加者については、参加を認めないことができる」という確認事項についてご質問がありましたので、お答えします。

これは決してお身体の弱い方のご参加拒否を目的としたものではありません。

念頭にあったのは、ともかく探鳥会は安全なものではない、そのうえで実りある自然体験の時間を過ごせるものでないといけないという基本的考え方です。最近参加者の幅が広がり、1回ごとの参加者数も多くなるにつれて、担当リーダーの責任も広く重くなってきています。そういう中で、誠に残念なことですが、リーダーの指示を無視して勝手な行動をとる人や、ほかの参加者に迷惑をかける人に対しては、それなりの対応をせざるをえないということです。

これからも増えることが予想される参加者の皆様全員が安全で楽しい探鳥会を体験できるように、ボランティアリーダーたちはこれからも努力を続けます。どうぞご協力をお願いします。



野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇1月19日、吉見町の大沼南側県道近くで冬羽の死骸1羽拾得。全長28cm、翼開長48cm。嘴の反り具合、弁足の形状、そして潜水に適応した体形等をじっくり観察することができた。特に、羽毛の美しさや柔らかさといったことは、実際に手に取ってみなければ分からないことである。密生した羽毛の集熱力・保温力はかなりのもので、手にしている者の体温を吸収してだんだん温まってきて、死骸に体温が戻ってきたような錯覚を覚えさせる。生きていた時の目は大きくルビーのように輝いているのに、ただの小豆粒みたいでちょっとさびしい。外傷等の外見的異常は見られなかった(榎本秀和)。

ゴイサギ ◇1月13日、栗橋町狐塚～幸手市松石で2羽(秋間利夫)。

アオサギ ◇12月29日、熊谷市の明戸川原で1羽(山口輝雄)。

マガン ◇12月31日午前10時、久喜市の昭和池で1羽。池の左側から歩き始めると、一斉にカモ達が池の中央へ泳ぎだす。その最後尾にマガン1羽。背中白い横斑、下尾筒の白が印象的でした。翌日には、姿見られず(逸見 嶮)。

オシドリ ◇12月21日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。ここでは珍しいです(北川慎一)。

トモエガモ ◇12月21日、本庄市の阪東大橋



ゴイサギ(海老原美夫)

下流で♂8羽♀3羽(井上幹男)。12月30日、同所で♂16羽♀16羽。今朝はどこにスコープを向けてもまるで「金太郎あめ」のようにトモエガモがスーッと顔を出し圧倒された(町田好一郎)。◇12月23日、戸田市道満で♂1羽。ずーっと見たいと思っていた鳥の一種。こんな身近で見られるなんてラッキー(高橋美保子)。◇12月30日、狭山湖で14羽(三田長久)。

ヨシガモ ◇12月21日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(北川慎一)。1月23日、同じ所で♂1羽(中島章二)。

アカハジロ ◇12月23日、戸田市道満で♂1羽。初めて見たけれど、顔の緑と脇腹の白がとても印象的だった(高橋美保子)。

ホオジロガモ ◇12月27日午前9時30分頃、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。カワアイサと並んで流れてきたが、おしゃれな彼は両頬にちゃ～んと「パック」をきめこんでいた(町田好一郎)。

カワアイサ ◇12月22日、本庄市の阪東大橋下流で♂2羽♀14羽(富沢哲志)。

オオタカ ◇1月15日、吉見町の八丁湖で1羽(菱沼一充)。

ハイタカ ◇1月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。

ノスリ ◇1月11日、三芳町の高福寺上空で2羽(谷中 稔)。

ハヤブサ ◇12月23日、戸田市道満で1羽。ヒラヒラと飛んできて、鉄塔の上で一休み(高橋美保子)。◇1月15日午前10時頃、志木市の柳瀬川、日本レダリー付近で1羽。

下流から比較的低空で飛んでくる。午後1kmほど上流にある田んぼで腹部に一撃を受けたオナガガモのオスの死体を発見。獲物を仕留めたものの、周囲に人がいたため降りることができなかった模様(遠藤 薫、佐久間博文、外山雅丈、中村 治、桃井尊史、渡辺敦)。

ヤマシギ ◇1月2日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井 亘)。

ウミネコ ◇12月30日、狭山湖で1羽。湖面でのんびりしていたが、カラスに追われて「ニャーニャー」鳴きながら東方へ飛び去

る(三田長久)。

ユリカモメ ◇1月7日午後2時頃、本庄市の阪東大橋下流で98羽(町田好一郎)。

アオバト ◇1月4日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。「オーオーアオ」と鳴く(田口浩司)。

コミミズク ◇1月13日、栗橋町狐塚~幸手市松石で1羽(秋間利夫)。◇1月15日、富士見市の柳瀬川、富士見橋近くの田んぼで1羽(遠藤 薫、佐久間博文、外山雅文、中村 治、桃井尊史、渡辺敦)。

カワセミ ◇1月26日、富士見市の富士見江川で1羽。新河岸川のカワセミが遊びにきたのでしょうが、カワセミが来るにはあまりにも汚い川なので、びっくりしてしまいました。パイプの上にとまっていて、1度ダイビングをしたあと、別の場所に飛び去っていきました(入沢直子)。

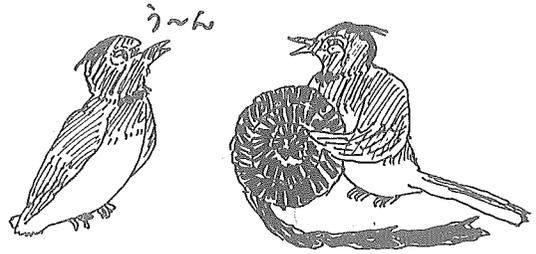
アオゲラ ◇1月1日、羽生市の自宅屋敷林で♂1羽(漆原 豊)。◇1月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。◇1月5日、菖蒲町の神明神社境内で♀1羽。枯れ木でドラミング(内藤義雄)。

アカゲラ ◇1月2日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(福井 亘)。◇1月3日、三芳町の多福寺で♂1羽(谷中 稔)。

ツバメ ◇1月19日午後1時20分、志木市の柳瀬川で1羽(佐久間博文)。

イワツバメ ◇1月20日、志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間で1羽。上空を北風に流されながら飛んだり水面をかすめたり。この季節にと、10分近く見ていましたが、まず間違いなし(中司隆由)。

ミソサザイ ◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。



「今年は何メートルにします?」

(押川 歳子)

カヤクグリ ◇1月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。

ルリビタキ ◇1月2日、浦和市三室で1羽。◇1月3日、三芳町の多福寺で♀1羽(谷中 稔)。

トラツグミ ◇1月3日、三芳町の多福寺で1羽(谷中 稔)。◇1月5日、菖蒲町の神明神社境内で1羽。水たまりで水浴び(内藤義雄)。

アカハラ ◇12月22日、東大宮の自宅の庭で1羽。水飲み場でちょつと飲んで、すぐ行ってしまふ。初めての来訪(墨江雄三・光子)。◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。1月4日にも1羽(田口浩司)。

シロハラ ◇1月3日午後3時、菖蒲町の神明神社境内で1羽(内藤義雄)。

ヤマガラ ◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。

マヒワ ◇1月2日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で5羽(福井 亘)。◇1月10日、川越市の伊佐沼公園の雑木林でカワラヒワの群れに混じって数羽(中司隆由)。

イカル ◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で10羽以上(田口浩司)。

表紙の写真

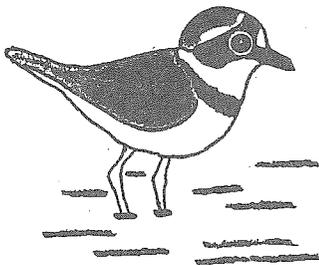
ネイチャーフォトコンテスト1991入選作

アカハラ (ヒタキ科ツグミ亜科)

まだ明けやらぬ山々 その静けさのなかで
ガサゴソ ガサゴソと落葉をかきわけ
エサをさがすアカハラ
あこがれのカタクリの群生
そのムラサキをひとりじめ

クリッとした目が愛らしく ついついよけ
いに シャッターを押してしまいました
ペンタックスSFXN タクマー 300mmED
F2.8 オート ×1.7 オートフォーカシング
フジクローム100 D 林 滋(美里町)

行事あんない



(佐藤方博)

川口市・差間探鳥会

期日：4月5日(日)
集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前
解散：大崎公園にて正午ごろ
担当：手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司

見どころ：お花見探鳥会(I) 通船堀の桜が見ごろです。花吹雪のなか、旅立ってゆくシメヤツグミ、カシラダカたちにお別れを。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月5日(日)
集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場
交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい(午前8時45分ごろから)。
担当：岡安征也、榎本秀和、内藤義雄、吉原俊雄、関口善孝

見どころ：お花見探鳥会(II) 梅は咲いたか、桜は満開、鳥見も花見も、この際一緒に楽しもう！ハヤブサ、オオタカ、そしてカワウの大編隊飛行にご期待下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月12日(日)
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷 9:00発または寄居 8:52発に乗車

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般 100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、関口善孝、諏訪夕香子、菱沼一充、神沼幸三郎
見どころ：春爛漫の大麻生にツバメやコアジサシが運んできた夏の息吹き、次はカモヤツグミが北の国へ伝えます。季節のバトンタッチ、見届けて下さい。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月19日(日)
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司
見どころ：集まれ、探鳥1年生。心機一転、バードウォッチングを始めよう、と思い立ったあなた。まずは三室で身近な鳥を覚えましょう。ベテランの方も、時には1年生気分です。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：4月24日(金)夜行~26日(日)
集合：24日20時 JR浜松町駅東京寄り改札口
帰路：26日19時20分ごろ東京港に到着の予定
費用：18,000の予定(1泊3食、往復交通費、保険など)。他に島でのバス代若干。
定員：20名程度(先着順、県支部会員優先)。
申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、北川慎一(〒

まで

担当：北川

草間和子、菱沼一充

見どころ：恒例・バードアイランドの旅。アカコッコやイジマムシクイのさえずりのシャワー。帰りの船からコアホウドリやミズナギドリ類も間近にみられます。新鮮な海の幸もお楽しみに。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月25日(土)午後1時～3時ごろ

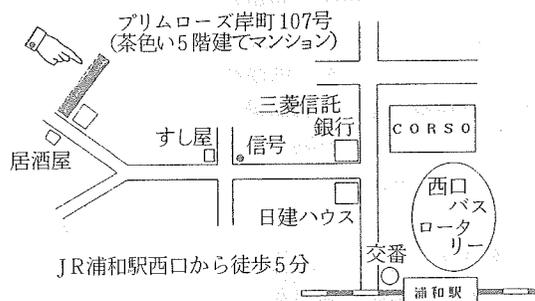
会場：支部事務局(下の地図参照)

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月25日(土)午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

事務局は 这里です！



シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日(水・祝)

日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行なっています。特に下記の地点では、より多くの会員のご協力をお願い致します。

◇秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井智、登坂久雄

解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費はいりません。いつものしたくでお気軽にどうぞ。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月23日(土)早朝～24日(日)

集合：23日午前5時20分JR長野駅改札口前

交通：23日午前0時26分大宮発急行「妙高」に乗車、4時43分長野着。夜行が苦手な方は、長野駅前のホテルで前泊を。

費用：10,000円の予定(1泊3食・現地バス代・参加費・保険料など。)他に、往復の交通費。

定員：40名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、北川慎一(〒111-0001)まで

担当：北川

草間和子、菱沼一充

見どころ：夏鳥三昧ツアー(I)キビタキ、オオルリ、コルリ、サンショウクイと、ずらり勢ぞろい。宿では手打ちそばと地酒の食べ放題、飲み放題。2日間楽しく過ごせば、みんな鳥仲間。ひとりでご参加の方も心配無用です。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月30日(土)～31日(日)

集合：午前7時45分 大宮駅東武線改札口

費用：12,000円の予定(宿泊費、往復交通費、保険料、参加費など)

定員：20名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、中島康夫(〒321-0001)まで

担当：中島康夫、福井恒人、松井昭吾

見どころ：夏鳥三昧ツアー(II)湯滝周辺ではコマドリ、キビタキ、ムシクイ類。戦場が原ではノビタキ、ホオアカ、オオジシギ。夜は温泉を楽しみ、フクロウやヨタカの声を聴き、一杯やりつつ鳥談義。もりだくさんの2日間。

5月3日(日)菅生沼

5月5日(火・祝)阪東大橋

5月9日(土)多摩川河口

5月10日(日)バードウィーク探鳥会：大蔵生、秋ヶ瀬、西川越、深作川、丸山公園。

5月17日(日)浦和市・三室地区

5月24日(日)入間川

5月31日(日)三峰山

行事報告



12月21日(土)『しらこぼと』袋づめの会

作業を楽しんだ人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、小野光昭、角田真喜子、草間和子、楠見文子、墨江光子、田口浩司、中村治、藤野富代、渡辺孝章 (13人)

12月21日(土) 写真クラブ定例会

参加者 16人

作品発表 スライド2人、ビデオ1人

12月23日(月、休) 所沢市 狭山湖

人 65人 **天気** 晴後曇 **鳥** カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ ホオジロガモ オオタカ ノスリ コジュケイ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 連休にもかかわらず、あっと驚く人数が参加。前回より採用した多摩湖畔サイクリング道を通るコースを行く。森の鳥を高い位置から見る事ができて面白い。狭山湖横の遊歩道では、対岸の木の中に鳥を発見。議論百出したが、オオタカ若鳥で決着。狭山湖堤防では、風もなく、のんびりとガモ類を観察。100羽近いカンムリカイツブリと一緒に予告しなかったトモエガモが見られて大喜び。(三田長久)

1月3日(金、休) 浦和市 さぎ山記念公園

人 59人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロ

ハジロ チョウゲンボウ タゲリ クサシギ イソシギ タシギ カモメ SP シラコバト キジバト コミミズク コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 新年最初の探鳥会で42種も出てしまった。あんまり多いので、行事報告の原稿を書くのが疲れるのだ。だから、天気が大変良くてすばらしい探鳥会だったことも、新年最初の探鳥会だけ恒例の探鳥会後の野外懇親会が、持ち寄った料理とアルコールでおおいに盛り上がったことも、あまり書かないのだ。(海老原美夫)

1月5日(日) 久喜市 昭和池

人 45人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ ミコアイサ ユリカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (32種) 暖かい日和に恵まれ、参加者も多数。昭和池名物のトモエガモも多く見られ初めて見る方も多く、大変喜んでおられました。他には、アメリカヒドリ雄2羽、ハシビロガモなど。識別の勉強にもなりました。(中島康夫)

1月11~12日(土~日) 宮城県 伊豆沼

人 34人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ シジュウカラガン

マガン ヒシクイ オオハクチョウ コハク
 チョウ マガモ カルガモ コガモ トモエ
 ガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガ
 モ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイ
 サ カワアイサ トビ オジロワシ ノスリ
 チュウヒ ハヤブサ コチョウゲンボウ チョ
 ウゲンボウ キジ オオバン イカルチドリ
 タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ
 アオゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロ
 セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョ
 ウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ
 ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュ
 リン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズ
 メ ムクドリ オナガ ハシボソガラスハシ
 プトガラス (57種) 今年は1万数千羽のマガ
 ンが渡来しているとのことでしたが、夕暮れ
 の空に千羽、2千羽とガンが湧いてくる感じ
 で帰ってくる様子は圧巻でした。蕪栗沼にも
 多くのマガンとヒシクイが降りていて、間近
 に見ることができました。オジロワシ雄成鳥
 2羽もバッチリと見られました。参加者全員
 の協力により素晴らしい探鳥会ができました。
 感謝いたします。 (中島康夫)

1月12日(日) 熊谷市 大麻生

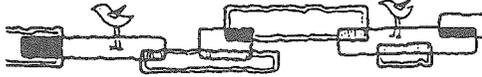
人 57人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワ
 ウ コサギ アオサギ コハクチョウ マガ
 モ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビ
 ロガモ ハヤブサ キジ イカルチドリ イ
 ソシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒ
 バリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
 バリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
 ミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウ
 カラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ
 ジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
 ハシボソガラス ハシプトガラス (39種)
 森では、ヤマガラやヒガラが、河原ではタヒ
 バリやイカルチドリが、水面には多くのカモ
 たちが、僕たちを楽しませてくれた。その上、
 ハヤブサと大麻生では半分あきらめていたコ
 ハクチョウが鳥合わせの場所で待っていてく
 れた。今回は初めての参加者が多く、身近な
 自然で得たこの感動がきっと印象深いものだっ
 たろう。 (諏訪隆久)

1月15日(水、休) ガン・カモ類一斉調査
 カウントを楽しんだ人 荒木恒夫、有山智樹、
 石井幸男、石井智、石岡友二、内田博子、榎
 本秀和、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、
 大武昭雄、久保田忠資、小荷田行男、小林恒
 雄、駒崎政雄、佐久間博文、佐藤方博、篠崎
 道子、下田敏夫、諸徳寺四郎、杉本秀樹、諏
 訪隆久、外山雅大、高橋達也、高橋美保子、
 立岩恒久、手塚正義、登坂久雄、登坂ひろみ、
 内藤義雄、中島康夫、中島郁夫、中村治、野
 中康治、羽石幸子、馬場昇、林滋、菱沼一充、
 福井恒人、福井巨、逸見嶮、町田好一郎、三
 田長久、箕輪眞澄、桃井尊央、森本國夫、森
 本陽子、山部直喜、吉本富美子、吉原俊雄、
 渡辺敦、渡辺嘉男、(52人) 晴天だが強い北
 風の中、県内18カ所で調査が行われました。
 狭山湖担当の杉本さんからのお便り(一部)
 をご紹介します。「…寒い寒い、北風ビュー
 ビューの中、3名の有志が来てくれました。
 いや実に有り難いことでした。…カウントの
 途中頭上をオオタカが舞って、カモ類の相当
 数が一斉に飛んだので、それまでのがパーに
 なってしまいました。涙ポロポロ鼻水ズルズ
 ルでもう一度最初から。」ほんとうにご苦勞
 様でした。 (三田長久)

1月19日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 35人 天気 快晴 鳥 カワウ カイツ
 ブリ コサギ マガモ カルガモ コガモ
 オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キ
 ンクロハジロ バン オオバン タゲリ キ
 ジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハ
 クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ
 ズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カ
 ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボ
 ソガラス (33種) 天気はよかったが風が冷た
 い。鳥の姿も今ひとつ。ジョウビタキ雄を見
 て、ようやく盛り上がる。大沼には千羽ほど
 のカモ。その中にオオバンとバンの姿も。下
 見では30羽ほどいたタゲリは、何人かが見ら
 れただけだった。そのあと、県道の傍らでハ
 ジロカイツブリ冬羽の死骸1羽を拾得。鳥合
 わせのときに教材として活用。 (榎本秀和)

連絡帳



野鳥画展の作品募集

今年のバードウィークイベントは、野鳥画展を予定しています。

タイトル 環境を考える野鳥画展(仮称)

期間 5月9日(土)~17日(日)

会場 熊谷駅ビルA2熊谷4階カプセルプラザ(エスカレーター横)

あなたの描きためた野鳥画を貸してください。いきいきとした野鳥の姿を通じて、人間と野鳥の生きる環境の問題を考える場に、あなたのご参加をお待ちしています。

搬入展示作業は、9日(土)午前10時~11時。この間に直接会場までお持ちいただくか、前日までに事務局にお届けください。

絵は描いてないけど、展示作業などなら手伝えるよという方も大歓迎、会場に直接おいでください。

PTA家庭教育学級探鳥会

2月1日(土)狭山市立東中学校PTAの家庭教育学級として、入間川で探鳥会が開かれ、支部から石井・小野・柳原・三田、4名のリーダーが指導に当たりました。

大雪にもかかわらず、11名の参加者があり、積雪の向こうに、カワセミなど21種類の鳥を見ることができて、みんな大喜びでした。

杉並区的环境展に協力

1月29日(水)~2月11日(火)、都内杉並区において、ECO AID '92実行委員会主催、杉並区後援の環境展 ECO AID '92が開催されました。同区内に住んでいる当支部の杉本秀樹幹事を通じて協力依頼があり、野鳥写真パネル展示に協力、環境問題における野鳥という要素の重要性を訴えました。

(当支部所蔵の写真パネルは、『野鳥』誌2月号でも紹介されたフォトコンテストの入選

作品を年に30枚ずつ作成したもので、現在150枚。バードウィーク期間中には都内亀戸駅ビルで、4月10日~5月末までは三菱信託銀行浦和支店ロビーで展示される予定もあります。自然保護のために役立つ企画には積極的に活用したいと考えています。ご相談ください。)

4月の土曜日当番(2時~6時)

4日 中島康夫 伊藤芳晴(普及部会議)

11日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

18日 草間和子 福井恒人

25日 袋づめの会(1時から)

会員数は

3月2日現在 1,844人です

活動報告

2月1日 普及部会議(探鳥会予定)。

2月8日 編集会議(3月号編集作業など)。

2月15日~16日 第12回評議員会に出席(鈴木・松井・海老原・山部)。

2月22~23日 役員リーダー懇親研修会(福島県いわき市にて)。

2月29日 事業部事務処理(草間)。支部補助金申請手続きなど(事務局)。

3月7日 役員会議(司会・諏訪隆久、4年度鳥獣保護員の推薦・バードウィーク展企画・6月までの行事予定・その他)。



この頃は、探鳥会を選んでいると言われそうですが、先日は久しぶりに裏妙義の探鳥会ヘイヌワシを見に出かけました。

タカはとまっている姿、ワシは飛んでいる姿が最高と思っていますが、イヌワシの飛翔は、いつ見てもほれほれするほど見事なものです。誰かが言っていましたが、まさに風の精霊でした。(藤原寛治)

『しらこぼと』1991年4月号(第95号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)